

2009年10月8日

**<ダイキン「第14回 現代人の空気感調査」>**  
**「インフルエンザに関する危機意識 調査」結果発表**  
**「外は危険、家は安心？」、意識の境界線は“玄関”**  
**～居住空間のウイルス感染防止対策は、意外に不十分～**

ダイキン工業株式会社は、全国の20代～60代の成人男女500人を対象に「インフルエンザに関する危機意識」をテーマにしたアンケートを実施しました。

14回目となる今回の調査は、いま急速に拡大を続けている「新型インフルエンザ」を含む「インフルエンザ」に焦点を当て、ここなら大丈夫といった「安全な空気（場所）」、ウイルスに感染しそうな「危険な空気（場所）」などの危機意識と、実施している対策について調査を行いました。

主な結果として、インフルエンザ流行時でも、自宅の空気が安全だと思う人は約7割にも上りました。さらに、マスクを外す場所は、「家の中に入る時」（44.0%）と、「家の玄関先で」（31.7%）を合わせて75.7%を記録するなど、ウイルス感染に対する意識として、「家の中は安全」、「家の外は危険」といった意識の差が表れました。

しかしながら、東京都感染症医療対策アドバイザーである高橋 央氏は、今回の調査結果から、うがい・手洗いなどだけでなく、部屋の空気など“環境感染管理”が不十分だと指摘しています。

インフルエンザのような接触や飛沫（咳やくしゃみ）で感染が広がる病気では、手洗いやマスク着用のような個人レベルの予防と、空気清浄と気流管理といった居住空間の環境感染管理が、感染予防策の両輪となります。今回の調査結果では、各年齢層において個人レベルで感染予防は努力して実践しているが、空気をきれいにする事までは充分認識されず、手が回っていないことを示しています。その背景には、日本人は家の玄関で靴やコートを脱ぎ、家に入る文化があり、家の内は感染のリスクが低いと安心しきって、感染への注意力が下がってしまうことがあるかも知れません。（高橋 央氏のコメント：詳細は別紙参照）

**「インフルエンザに関する危機意識 調査」主な結果**

**I.安全・危険の意識は、自宅玄関を境界線にして切り替わる**

- ・予防処置が最も必要なタイミングだと思う瞬間の第1位は、「帰宅した時（50.6%）」
- ・マスクを外す場所は、「家の中に入る時」（44.0%）「家の玄関先で」（31.7%）合わせて75.7%

**II.パンデミックでも自宅にいれば安心！？**

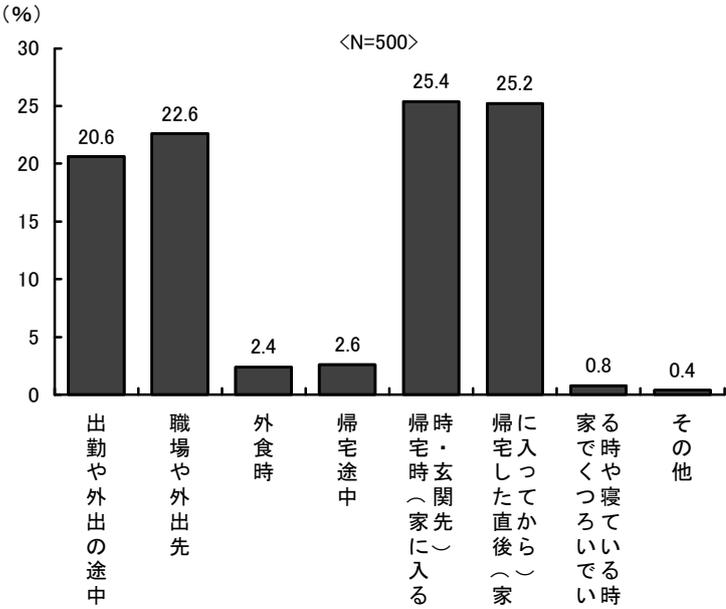
- ・最も不安な場所は「交通機関や空港・駅など（91.0%）」である一方、「自宅（34.2%）」は最も低い
- ・インフルエンザの流行時でも、自宅の中の空気は安全だと思う人は約7割

**III.自宅内では“個人”の対策は出来ても、“室内環境”の対策は不十分**

- ・十分な栄養や睡眠をとる、顔・手洗い（83.8%）、うがい（68.8%）などの“個人”の対策は実施できている反面、空気清浄機を使う（26.4%）、室内の加湿（17.2%）など、“室内環境”の対策に対する感染対策は不十分。
- ・外出先での対策は、危険の意識が高いにも関わらず、手軽に実施できる顔・手洗い（31%）、うがい（20.6%）などが不十分な結果となった

**I. 安全・危険の意識は、自宅玄関を境界線にして切り替わる**  
 ～予防処置が最も必要なタイミングだと思う瞬間の第1位は、「帰宅した時（50.6%）」～

図1：インフルエンザに対する予防処置が最も必要なのは、どのタイミングだと思うか（複数回答）



性別	男性 <n=250>	20.6	22.6	2.4	2.6	25.4	25.2	0.8	0.4
	女性 <n=250>	22.0	19.6	3.2	2.4	25.6	26.8	-	0.4
年齢	20代 <n=100>	17.0	24.0	5.0	2.0	26.0	21.0	4.0	1.0
	30代 <n=100>	17.0	20.0	1.0	2.0	39.0	21.0	-	-
	40代 <n=100>	26.0	30.0	1.0	1.0	13.0	29.0	-	-
	50代 <n=100>	20.0	22.0	1.0	5.0	23.0	29.0	-	-
	60代 <n=100>	23.0	17.0	4.0	3.0	26.0	26.0	-	1.0
インフルエンザに対する不安感	不安を感じている <n=375>	19.5	22.9	2.9	2.1	28.5	23.2	0.3	0.5
	不安を感じていない <n=125>	24.0	21.6	0.8	4.0	16.0	31.2	2.4	-

インフルエンザに対する予防処置が最も必要だと思うのは、「帰宅時（家に入る時・玄関先）」(25.4%)、「帰宅した直後（家に入ってから）」(25.2%) が並んで多く、次いで「職場や外出先」(22.6%)、「出勤や外出の途中」(20.6%) が続いています。第一に“ウイルスを家に持ち込まない”、次いで“外でウイルスをもらわない”という意識が強く働いているようです。

性別では特に差はみられません。年代別にみると、「帰宅時（家に入る時・玄関先）」は《30代》(39.0%) で最も多く、「帰宅した直後（家に入ってから）」は《40代》《50代》(それぞれ 29.0%)、《60代》(26.0%) など、比較的上の年代で高めになっています。

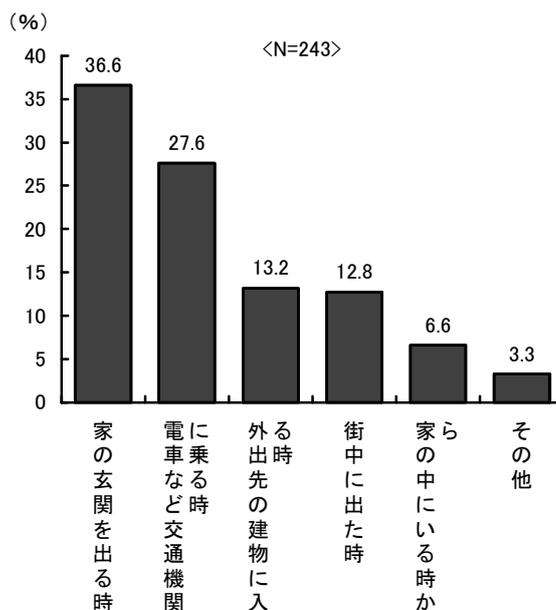
インフルエンザに対する不安感別にみると、「帰宅時（家に入る時・玄関先）」は《不安を感じている》(28.5%) 人の方が《不安を感じていない》(16.0%) より多くあげています。一方、「帰宅した直後（家に入ってから）」は、《不安を感じていない》(31.2%) の方が《不安を感じている》(23.2%) よりやや高率になっています。

## I. 安全・危険の意識は、自宅玄関を境界線にして切り替わる

～マスクを外す場所は、「家の中に入る時」(44.0%)「家の玄関先で」(31.7%) 合わせて 75.7%～

マスクの使用状況について聞きました。まず、マスクの使用率を見ると、「マスクはつけない」(51.4% : 257名)、「マスクをつける」(48.6% : 243名) となりました。

図 2 : マスクはどこでつけることが多いか<マスク利用者ベース>



性別	男性 <n=110>	31.8	30.0	13.6	15.5	5.5	3.6
	女性 <n=133>	40.6	25.6	12.8	10.5	7.5	3.0
年齢	20代 <n=41>	43.9	22.0	12.2	12.2	7.3	2.4
	30代 <n=48>	35.4	25.0	12.5	6.3	16.7	4.2
	40代 <n=50>	30.0	30.0	10.0	24.0	-	6.0
	50代 <n=52>	42.3	28.8	9.6	13.5	3.8	1.9
	60代 <n=52>	32.7	30.8	21.2	7.7	5.8	1.9
インフルエンザに対する不安感	不安を感じている <n=206>	37.9	25.7	14.6	12.6	6.3	2.9
	不安を感じていない <n=37>	29.7	37.8	5.4	13.5	8.1	5.4

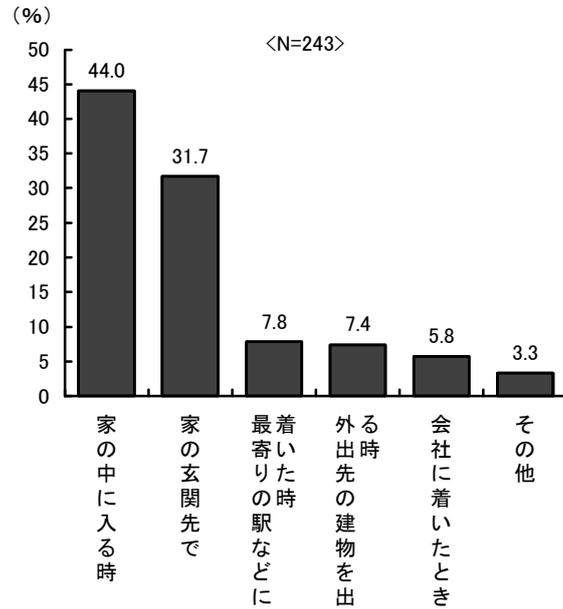
マスク利用者ベースで見ると、「家の玄関を出る時」(36.6%) が3割以上を占め、次いで「電車など交通機関に乗る時」(27.6%) が続き、この2項目が多くなっています。

また、「家の玄関を出る時」(36.6%)、「家の中にいる時から」(6.6%) など、外出する前からマスクをつけている人は4割強(43.2%)で、外出してからマスクをつける人の方がやや多くなっています。

性別にみると、「家の玄関を出る時」は《女性》(40.6%)の方が《男性》(31.8%)よりやや高くなりました。

年代別では明らかな差はみられませんでした。インフルエンザに対する不安感別にみると、「家の玄関を出る時」は、《不安を感じている》(37.9%)の方が《不安を感じていない》(29.7%)より明らかに多くなっています。

図 3：マスクはどこで外すことが多いか〈マスク利用者ベース〉



性別	男性 <n=110>	46.4	29.1	7.3	7.3	8.2	1.8
	女性 <n=133>	42.1	33.8	8.3	7.5	3.8	4.5
年齢	20代 <n=41>	48.8	26.8	4.9	9.8	4.9	4.9
	30代 <n=48>	41.7	31.3	8.3	8.3	2.1	8.3
	40代 <n=50>	48.0	34.0	4.0	8.0	4.0	2.0
	50代 <n=52>	30.8	42.3	15.4	1.9	7.7	1.9
	60代 <n=52>	51.9	23.1	5.8	9.6	9.6	-
インフルエンザに対する不安感	不安を感じている <n=206>	45.6	30.1	6.8	8.7	5.3	3.4
	不安を感じていない <n=37>	35.1	40.5	13.5	-	8.1	2.7

マスク利用者ベースでみると、「家の中に入る時」(44.0%)が4割強、続く「家の玄関先で」(31.7%)が3割を占め、この2項目が突出しています。しかし、「家の中に入る時」までマスクをつけている人は半数未満であり、家に入る前にマスクを外す人の方が、割合としては高くなっています。

性、年代別では、マスクを外すタイミングに大きな違いはみられません。

インフルエンザに対する不安感別にみると、「家の中に入る時」外すという人は、「不安を感じている」(45.6%)の方が「不安を感じていない」(35.1%)より多くなっています。

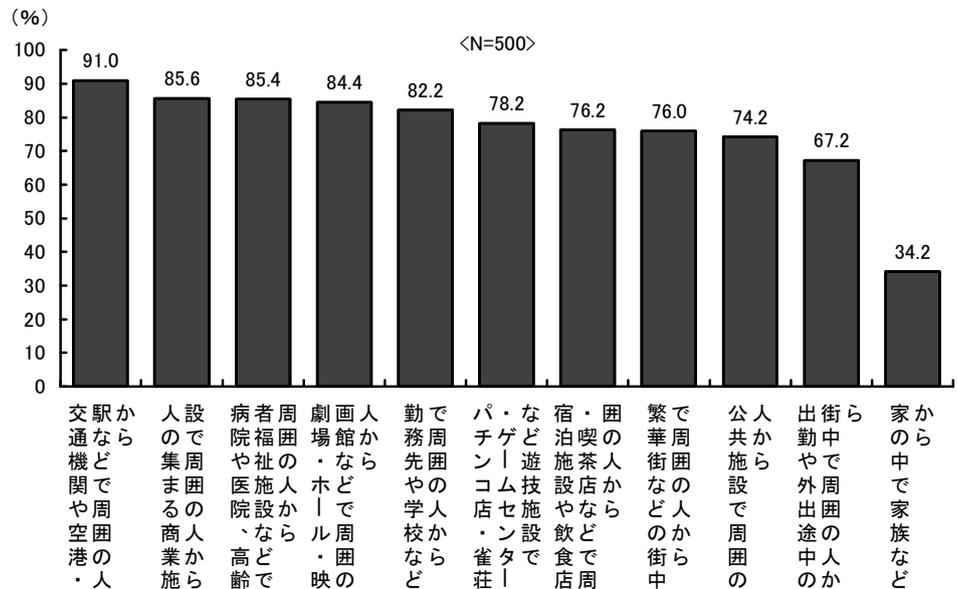
## Ⅱ. パンデミックでも自宅にいれば安心！？

～最も不安な場所は「交通機関や空港・駅など（55.8%）」である一方、「自宅（34.2%）」は最も低い～

インフルエンザに感染する危険度が“高いと思う”の割合をみると、「交通機関や空港・駅などで周囲の人から」（91.0%）が最も多く、以下、「人の集まる商業施設で周囲の人から」（85.6%）、「病院や医院、高齢者福祉施設などで周囲の人から」（85.4%）、「劇場・ホール・映画館などで周囲の人から」（84.4%）、「勤務先や学校などで周囲の人から」（82.2%）などが続いています。

特に、「交通機関や空港・駅などで周囲の人から」「病院や医院、高齢者福祉施設などで周囲の人から」の2項目は半数以上が「非常に危険度が高いと思う」（それぞれ 55.8%、53.6%）としています。一方、「家の中で家族などから」（34.2%）は3割程度と比較的少なくなっています。ほかの家族がウイルスを持ち帰る可能性は十分にありますが、“我が家”に帰ると安心感から警戒心が緩むのかもしれない。

図 4：インフルエンザに感染する危険度が高いと思う場所



性別	男性 <n=250>	88.4	83.6	83.2	84.0	83.2	78.8	75.6	75.2	74.4	65.6	26.0
	女性 <n=250>	93.6	87.6	87.6	84.8	81.2	77.6	76.8	76.8	74.0	68.8	42.4
年齢	20代 <n=100>	90.0	83.0	84.0	79.0	87.0	69.0	73.0	76.0	71.0	69.0	36.0
	30代 <n=100>	91.0	84.0	84.0	83.0	82.0	79.0	78.0	80.0	78.0	74.0	37.0
	40代 <n=100>	86.0	84.0	78.0	83.0	83.0	75.0	71.0	69.0	66.0	63.0	47.0
	50代 <n=100>	95.0	85.0	91.0	87.0	81.0	80.0	77.0	73.0	75.0	60.0	31.0
	60代 <n=100>	93.0	92.0	90.0	90.0	78.0	88.0	82.0	82.0	81.0	70.0	20.0
インフルエンザに対する不安感	不安を感じている <n=375>	93.3	88.8	88.8	87.7	87.5	80.8	80.8	80.0	77.6	70.9	38.7
	不安を感じていない <n=125>	84.0	76.0	75.2	74.4	66.4	70.4	62.4	64.0	64.0	56.0	20.8

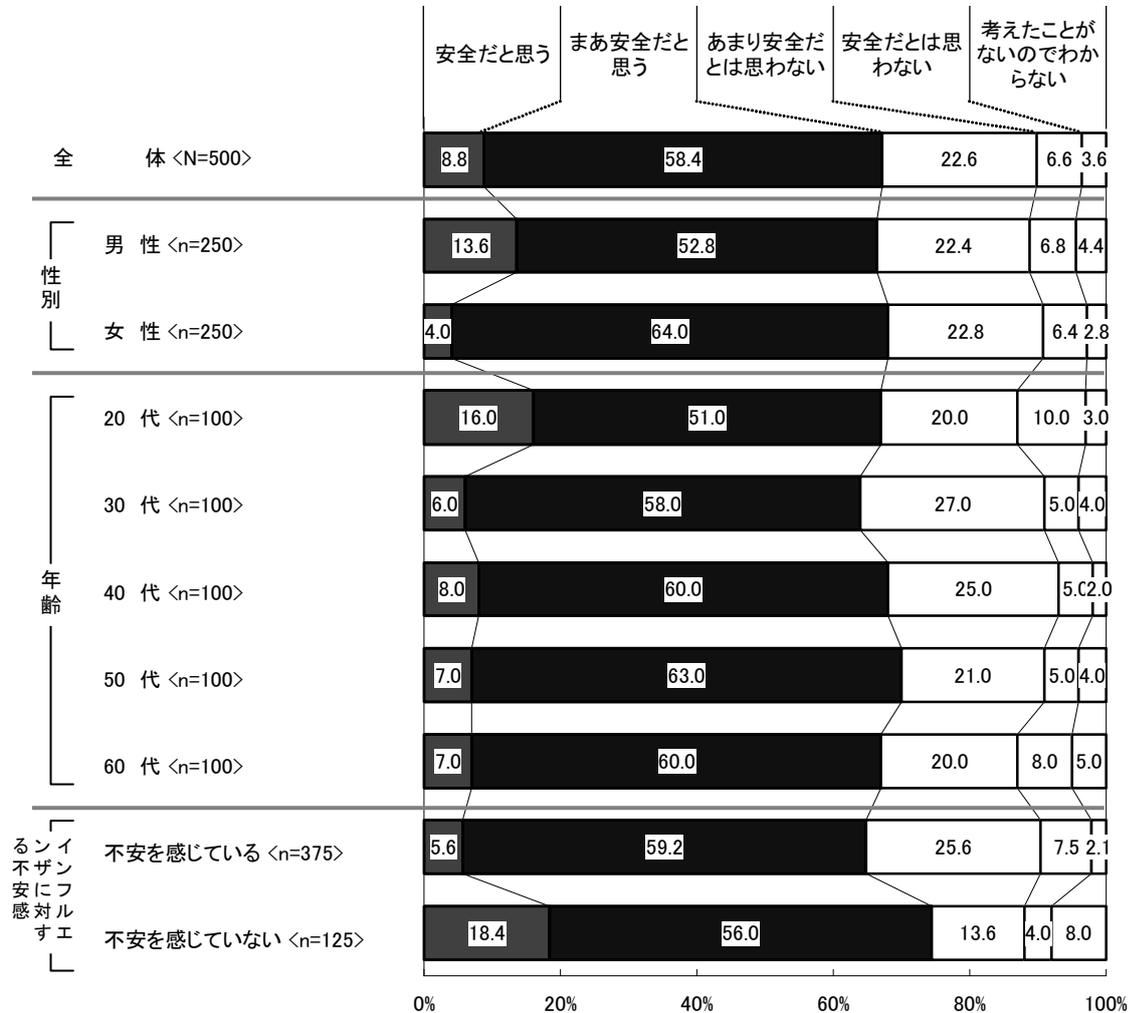
性別に危険度が“高いと思う”の割合をみると、「家の中で家族などから」は《女性》（42.4%）の方が《男性》（26.0%）より明らかに高く、《女性》は家庭内でも用心を怠らない人が多いと言えます。夫や子どもなどが外でウイルスを持ち帰ってくることを警戒している人が多いのかもしれない。

年代別にみると、「人の集まる商業施設で周囲の人から」「劇場・ホール・映画館などで周囲の人から」の2項目は、差はわずかながら上の年代の方が多くなっています。一方、「勤務先や学校などで周囲の人から」は《20代》（87.0%）で最も高くなっています。

## Ⅱ. パンデミックでも自宅にいれば安心！？

～インフルエンザの流行時でも、自宅の中の空気は安全だと思う人は約6割を超える～

図5：インフルエンザの流行時でも、自宅の中の空気は安全だと思うか



自宅の中の空気について、家族がインフルエンザにかかっていない限り安全だと思うかを聞いたところ、「安全だと思う」（67.2％）という人が多く、「安全だとは思わない」（29.2％）は3割程度となっています。

性別にみると、「安全だと思う（安全だと思う＋まあ安全）」の割合はほとんど差がありませんが、「安全だと思う」に限定してみると、「男性」（13.6％）の方が「女性」（4.0％）より高めになっています。

年代別に「安全だと思う」の割合をみると、「20代」（16.0％）だけ高めになっています。インフルエンザに対する不安感別にみると、「安全だと思う」の割合は、「不安を感じていない」（74.4％）の方が「不安を感じている」（64.8％）より約10ポイント高くなっています。

### Ⅲ. 自宅内では“個人”の対策は出来ても、“室内環境”の対策は不十分

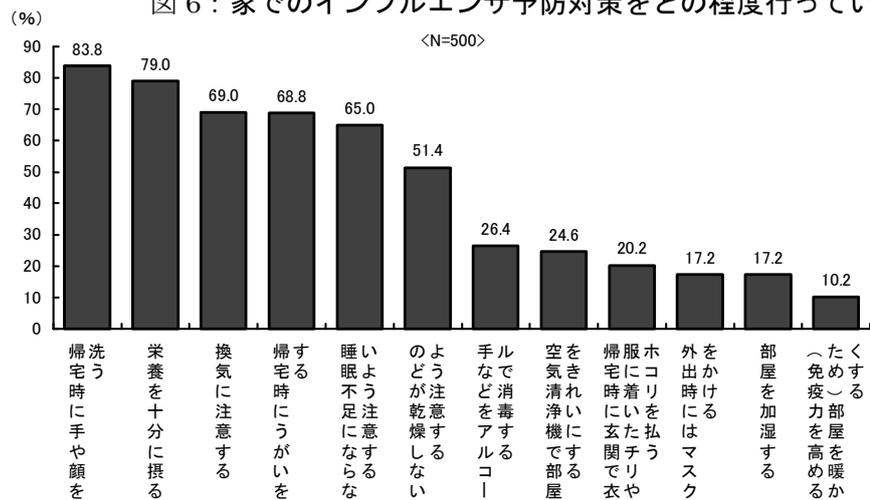
～十分な栄養や睡眠をとる、顔・手洗い（83.8%）、うがい（68.8%）などの“個人”の対策は実施できている反面、空気清浄機を使う（26.4%）、室内の加湿（17.2%）など、“室内環境”の対策に対する感染対策は不十分。～

家での具体的な対策をどの程度行っているか、たずねました。

「帰宅時に手や顔を洗う」（83.8%）が最も高く、次いで「栄養を十分に摂る」（79.0%）が続いており、ウイルスを家に持ち込まないこと、抵抗力をつけることが2大対策と言えそうです。

以下、「換気に注意する」（69.0%）、「帰宅時にうがいをする」（68.8%）、「睡眠不足にならないよう注意する」（65.0%）、「のどが乾燥しないよう注意する」（51.4%）などが続いています。特に「帰宅時に手や顔を洗う」「帰宅時にうがいをする」の2項目は、「ほとんどそうしている」が4割と多く（それぞれ44.6%、41.0%）、家での対策として重視している人が多いようです。一方、「部屋を加湿する」（17.2%）、「（免疫力を高めるため）部屋を暖かくする」（10.2%）など、部屋の温度、湿度のコントロールをしている人は比較的少数にとどまっています。

図6：家でのインフルエンザ予防対策をどの程度行っているか



性別	男性 <n=250>	78.0	76.4	59.2	66.0	58.0	43.2	24.0	22.0	22.0	14.0	14.8	9.2
	女性 <n=250>	89.6	81.6	78.8	71.6	72.0	59.6	28.8	27.2	18.4	20.4	19.6	11.2
年齢	20代 <n=100>	83.0	77.0	66.0	66.0	57.0	52.0	26.0	16.0	18.0	16.0	18.0	11.0
	30代 <n=100>	84.0	78.0	72.0	68.0	64.0	48.0	34.0	26.0	17.0	16.0	24.0	11.0
	40代 <n=100>	84.0	79.0	65.0	68.0	62.0	54.0	25.0	20.0	19.0	13.0	13.0	9.0
	50代 <n=100>	77.0	71.0	61.0	59.0	60.0	46.0	23.0	29.0	13.0	16.0	9.0	7.0
	60代 <n=100>	91.0	90.0	81.0	83.0	82.0	57.0	24.0	32.0	34.0	25.0	22.0	13.0
インフルエンザに対する不安感	不安を感じている <n=375>	86.7	82.7	72.0	72.8	66.9	54.4	29.3	26.7	21.6	20.8	18.7	10.9
	不安を感じていない <n=125>	75.2	68.0	60.0	56.8	59.2	42.4	17.6	18.4	16.0	6.4	12.8	8.0

性別にみると、全体に《女性》の方がさまざまな対策を行っており、特に「帰宅時に手や顔を洗う」（男性 78.0%、女性 89.6%）、「換気に注意する」（男性 59.2%、女性 78.8%）、「睡眠不足にならないよう注意する」（男性 58.0%、女性 72.0%）、「のどが乾燥しないよう注意する」（男性 43.2%、女性 59.6%）は10ポイント以上の差が生じています。自宅でも用心を怠らない傾向は、《女性》の方が強いのかもかもしれません。

年代別にみると、全体に《60代》でさまざまな対策を行う人が多くなっています。

インフルエンザに対する不安感別にみると、当然ながら《不安を感じている》層の方が、対策を行っている人が多くなっています。

### Ⅲ. 自宅内では“個人”の対策は出来ても、“室内環境”の対策は不十分

～外出先での対策は、危険の意識が高いにも関わらず、手軽に実施できる手・顔洗い（31%）、うがい（20.6%）などが不十分な結果となった～

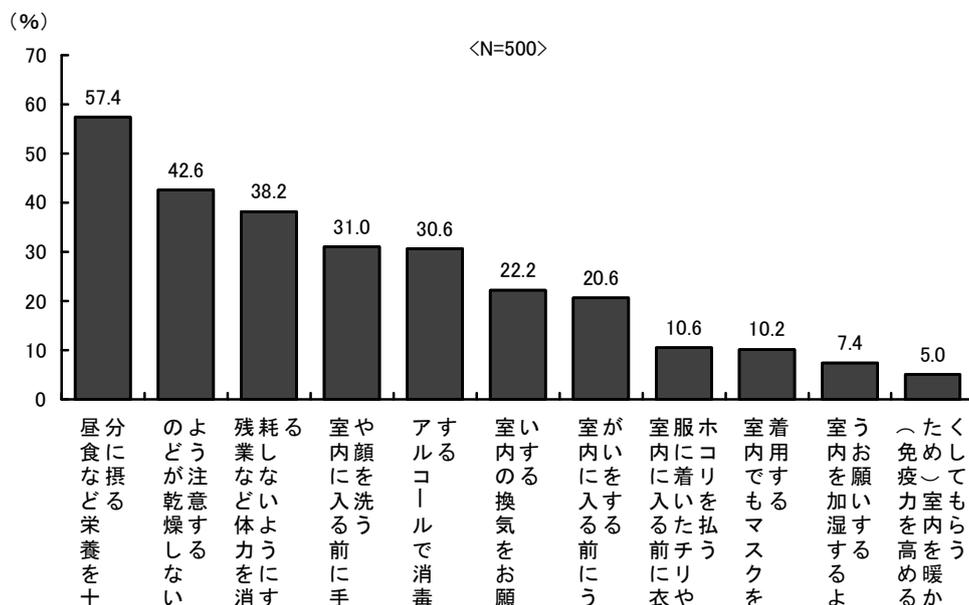
勤務先や学校など、外出先での具体的な対策をどの程度行っているか、たずねました。

「昼食など栄養を十分に摂る」（57.4%）が最も多く、次いで「のどが乾燥しないよう注意する」（42.6%）、「残業など体力を消耗しないようにする」（38.2%）、「室内に入る前に手や顔を洗う」（31.0%）、「アルコールで消毒する」（30.6%）などが続いています。

しかし、「室内に入る前に手や顔を洗う」「室内の換気をお願いする」「室内に入る前にうがいをする」の3項目は、在宅時と比べると実施率がかなり低く、外出先ではウイルス感染への対策が疎かになっていると考えられます。また、「室内を加湿するようお願いする」（7.4%）、「(免疫力を高めるため)室内を暖かくしてもらおう」（5.0%）も低くなっていますが、ほかの人も多数いる部屋では、自分の体調に合うように空気のコントロールをお願いするのは難しいのかもしれない。

性、年代別では明らかな差はみられません。インフルエンザに対する不安感別にみると、全体に《不安を感じている》方が、各種対策を行っている人が多くなっています。

図7：外出先でのインフルエンザ予防対策をどの程度行っているか



性別	男性 <n=250>	58.8	39.2	36.8	31.2	28.8	25.2	22.4	12.8	9.6	8.8	6.8
	女性 <n=250>	56.0	46.0	39.6	30.8	32.4	19.2	18.8	8.4	10.8	6.0	3.2
年齢	20代 <n=100>	58.0	39.0	35.0	32.0	33.0	19.0	19.0	8.0	13.0	8.0	3.0
	30代 <n=100>	57.0	46.0	40.0	25.0	37.0	21.0	16.0	10.0	10.0	8.0	3.0
	40代 <n=100>	63.0	42.0	40.0	44.0	32.0	18.0	34.0	10.0	14.0	4.0	6.0
	50代 <n=100>	44.0	41.0	31.0	24.0	27.0	23.0	12.0	6.0	7.0	4.0	5.0
	60代 <n=100>	65.0	45.0	45.0	30.0	24.0	30.0	22.0	19.0	7.0	13.0	8.0
インフルエンザに対する不安感	不安を感じている <n=375>	60.3	44.5	41.6	33.1	33.3	23.5	21.6	10.9	12.3	8.3	5.3
	不安を感じていない <n=125>	48.8	36.8	28.0	24.8	22.4	18.4	17.6	9.6	4.0	4.8	4.0

### 【おわりに】

今回の調査より、多くの人が、インフルエンザ感染において、自宅（家族）が最も安心できる場所という認識が浮き彫りになりました。

また、対策の結果を見ると、対策をしていると回答していますが、実際には、手洗い・うがいなどの基本的な体調管理といった“個人の対策”のみ行っており、部屋の加湿や温度設定など“環境の対策”については、ほとんど実施していないことが分かりました。

これは、インフルエンザの流行や対策に対する意識は高いが、身近で手軽に行えるインフルエンザ対策のみ実施しており、部屋の空気環境まで意識したインフルエンザ対策は行っていないということになります。

インフルエンザ発症までの潜伏期間は推定 2～3 日とされており、気づかないうちに（元気なうちに）、自宅内にウイルスを持ち込む可能性があり、必ずしも自宅が安心とは言いきることが出来ません。効果的なインフルエンザ対策として、手洗い、うがい、睡眠、十分な栄養を取るという基本的な体調管理に加え、部屋の換気や加湿、空気清浄機などを使った室内清浄など、部屋の空気環境にも十分配慮した対策が必要と思われれます。

近年、空気清浄機には様々なウイルスの分解・除去できる機能や効果を求められ、空気に対するニーズが高まってきている傾向にあります。当社としては、あらゆる方々に対して快適な空気環境を提供するための技術革新、さらには空気への理解を深めてもらう啓蒙活動を今後も継続して行ってまいります。

※本調査の詳細につきましては、「総合報告書」も合わせてご覧ください。

「総合報告書」は、当社ホームページからダウンロードできます。

※空気の調査ライブラリ アドレス <http://www.daikin.co.jp/kuuki/library/>

### 【調査概要】

- 1.調査対象者及びサンプル数：全国の 20 代～60 代の成人男女、500 人
- 2.調査方法：インターネット調査
- 3.調査時期：2009 年 9 月 2 日（水）～9 月 4 日（金）

### 【ダイキン工業の空気感調査】

当社は、“空気”にこだわり、空調の技術を進化させてきたトップメーカーとして、日頃あまり意識されてこなかった“空気”についてもっと多くの方々に関心を持っていただきたいと考えています。そのため 2002 年から“空気”に関する現代人の意識を浮き彫りにする「現代人の空気感調査」を実施してきました。

今回の調査は、その 14 回目となります。

**<これまでの主な調査内容>** ( ) 内は発表日

- 第1回 1万人アンケート「心地よい空気の3大理想郷」(02年6月17日)
- 第2回 日本人の「空気・水・安全<3大無料(タダ)モノ>」(02年12月2日)
- 第3回 主婦に聞いた「夏の睡眠と空気」(03年7月22日)
- 第4回 主婦に聞いた「冬の部屋の空気と風邪対策」(03年11月27日)
- 第5回 ビジネスパーソンに聞いた「健康増進法施行1年後の空気」(04年4月8日)
- 第6回 ビジネスパーソンに聞いた「冬のオフィスの空気」(04年12月7日)
- 第7回 ビジネスパーソンに聞いた「クールビズにみる夏のオフィス空気」(05年7月5日)
- 第8回 全国の主婦に聞いた「家庭内における冬の空気環境とウォームビズへの取り組み」(06年1月11日)
- 第9回 小学生200名に聞いた「子どもと夏の空気」(06年7月20日)
- 第10回 団塊世代層と団塊ジュニア層 男女400名に聞いた「夫婦の空気」(07年2月8日)
- 第11回 男女800名に聞いた「夏の空気と肌に関する意識調査」(07年8月8日)
- 第12回 1万人アンケート「5年前と比較した空気に対する意識変化の調査」(07年12月4日)
- 第13回 「夏の空気と健康に対する意識調査 ～メタボ編～」(08年7月23日)

●**報道機関からのお問い合わせ先**

**ダイキン工業株式会社 コーポレートコミュニケーション室**

【本社】〒530-8323 大阪市北区中崎西二丁目4番12号(梅田センタービル)

TEL(06)6373-4348(ダイヤルイン)

【東京支社】〒108-0075 東京都港区港南二丁目18番1号(JR品川イーストビル)

TEL(03)6716-0112(ダイヤルイン)

## 「インフルエンザに関する危機意識報告書」コメント

感染対策コンサルタント  
東京都感染症医療対策アドバイザー  
高橋 央（たかはし ひろし）

インフルエンザのような接触や飛沫（咳やくしゃみ）で感染が広がる病気では、手洗いやマスクの着用のような個人レベルの予防と、空気清浄や気流管理といった居住空間の環境感染管理が、感染予防策の両輪となります。それは病院でも一般家庭でも同じです。

今回の調査結果は、各年齢層において個人レベルでの感染予防は努力して実践しているが、空気をきれいにする事までは充分認識されず、手が回っていないことを示しています。その背景には、日本人は家の玄関で靴やコートを脱ぎ、家に入る文化があり、家の内は感染のリスクが低いと安心しきって、感染への注意力が下がってしまうことがあるかも知れません。

しかし、実際にこの調査結果では、昨シーズンにインフルエンザに感染した、家庭内で家族からインフルエンザに感染したとと思っている人も多く、家庭内での予防対策強化が必要なことが示唆されています。居室での気流管理として、窓開けによる換気は効果的ですが、寒い冬に窓開けはそう頻繁に出来ません。最新世代の空気清浄機を運転すれば、家庭での環境感染管理は更に向上する可能性があります。この考え方は、大人数が一日中活動する職場での環境感染対策へも適用できます。

インフルエンザは発症の前日から感染力をもつため、一人一人がうがいや手洗いを励行しても、周囲の人たちへ感染を拡げる可能性があります。本人が苦しい思いをするだけでなく、病人を看病する家人も仕事を休んだりして、皆の生活に支障を来します。家族全員の健康を守るため、日常の家庭内での空気衛生について、改めて家族で話し合ってみることも必要だと思われます。

### ■高橋 央 氏プロフィール

平成元年から東京都立豊島病院に勤務。3年から長崎大学熱帯医学研究所博士課程で寄生虫病学を専攻。同年クルド難民・湾岸戦争被災民救援 NGO 合同委員会から派遣され、イランのバクタラン州に赴任。米国疾病対策センター(CDC)疫学調査員、長野県立須坂病院感染制御部長を経て、東京都感染症医療対策アドバイザーに就任、現在に至る。

2003年にはWHO フィリピンのSARS 封じ込めチームのリーダーを経験。